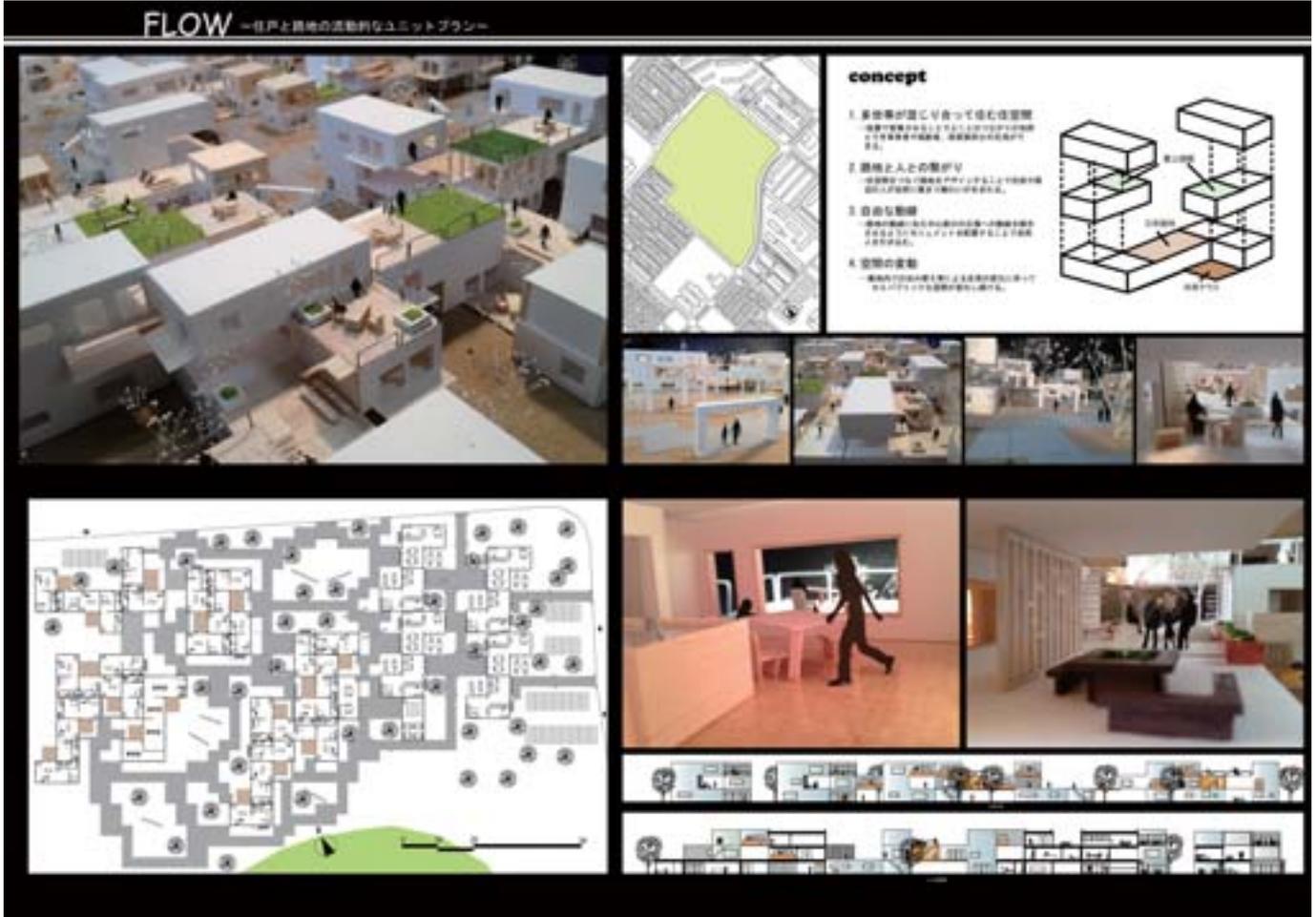




FLOW 住戸と路地の流動的なユニットプラン



萬崎 佑策 (まんざき ゆうさく)
東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科



近年、公団の団地は高齢化が進みそれによって住民が減少しそれにとまなう住戸数の縮小化による大規模低層住宅団地の提案。

低層で新しい住戸スタイルを提案する事で周辺住民や一戸建て住宅に住む高齢者の住み替えなどの人口の流動化を促す。

コンセプト

1. 多世帯が混じり合って住む住空間
…低層で密集させることでよことのつながりが自然とでき単身者や高齢者、核家族同士の交流ができる。
2. 路地と人とのつながり
…それぞれの住空間をつなぐ路地をデザインする事で住民や周辺の人が自然に集まり賑わいが生まれる。
3. 自由な動線
…路地の動線の他に広場への動線を暗示させるようなモニュメントを配置することで自然と人を引き込む。



講評

住宅団地のあり方を照射する提案である。現代日本を特徴づける核家族や単身化、高齢人口の増加を踏まえ、周辺の従来型団地や一戸建て住宅に住まう人々も巻き込み、その時々境遇に適した「住まい方」のできるコミュニティを思い描いている。

タイトルの「FLOW」には、①日常の人の流れ（ふれあいを育む生活動線）②適切な広さへの移行（家族構成の変化への適応）③加齢に応じた住み替え（高齢者に優しい住空間への誘導）など、多様な「流れ」を織り込んでいる。

それらの流れの選択肢、日常生活の豊かさをめざす建築言語が、「低層」「密集」「路地」である。中核となるのは2層一部3層の7戸×1ユニットで、その組み合わせ方により、地上と2階レベルに立体的な路地を生み出している。模型は魅力的な空間の連続を表現できており、リアリティもある。惜しむらくは図面表現が一般図に留まり、折角の「FLOW」の意図が鮮明でないこと。今後につなげるためにも「伝えたいこと」を改めて描き加えてみたらどうだろうか。

(審査委員：柳瀬 寛夫)